

〈研究ノート〉

日本語教育の方法論を応用した 初級沖縄語教科書について

花 蘭 悟 (東京外国語大学)

【キーワード】 沖縄方言、琉球語、危機言語、第二言語

1. はじめに

ユネスコ(国連教育科学文化機関)が2009年2月に発表した“世界消滅言語地図”には世界の言語のうちの3000語が「消滅の危機に瀕した言語」として挙げられているが、この中に日本国内に存在する言語であるアイヌ語(北海道)、沖縄語、国頭語、宮古語、八重山語、与那国語(以上沖縄県)、奄美語(鹿児島)、八丈語(東京都)が含まれている。県内に5つもの「危機言語」をもつ沖縄県もこの事態には以前から気づいており、既に2006年3月に「しまくとぅば(「島言葉」=各地域にみられる方言)の日に関する条例」を制定し、方言¹(琉球諸語)の保存に積極的な姿勢を示している。

ただし、地方自治体によるこのような「しまくとぅばの日」の制定、また国際機関であるユネスコからの危機言語としての認定以前から、琉球諸方言は共通語との異なりの大きさにより若い世代に「しまくとぅば」が継承されていなくなっていることから、方言継承への取り組みは「本土」の他の地域にくらべて盛んに行われているようである。

たとえば、小学校でクラブ活動として「しまくとぅば」教室が行われているところは多いし、公民館や博物館などにおける方言の講座もしばしば開講されている。カルチャーセンターの講座などでも沖縄語のコース²が開催されている。沖縄県の地方新聞である『琉球新報』などを見ても、各地で組踊が上演されたり「しまくとぅば」スピーチ大会が開催されたことがしばしば報じられている。NPO法人「沖縄語普及協議会」など民間の沖縄語継承のための団体も複数存在し、沖縄語講座の講師養成講にも力を入れているようである。

しかし、実際に那覇市内の小学校のクラブ活動に入って指導されている方から話を伺ったことがあるが、「しまくとぅば」教室といっても、クラブ活動の時間で一回50分、年10回程度であり、いわゆる“言語学習の臨界期”前の小学生の児童であるとはいえ、その程度で沖

1 方言と言語を分ける言語学的基準は存在しないと考えられるため、本稿では便宜的に「沖縄語」と呼ぶが、「沖縄方言」という呼称を排除するものではない。

2 2013年夏、商業ベースで行われているところは那覇市にある『桜坂市民大学』の「おじーおばーのウチナーグチ講座」のみである。かつては那覇市内では「ウェル・カルチャースクール」、「琉球新報カルチャースクール」でもウチナーグチ講座があったようではあるが。

沖縄語³がききとれ、さらに自分の言いたいことが言えるようなレベルに達することを目標とはできないという。たとえばスピーチ大会の様子が地方テレビで放映されることがあり、子どもたちが非常に流暢に沖縄語を話しているように見えるのだが、これは教師によって添削された原稿を暗記している場合が多いらしい。

また、これは筆者自身の経験でもあるのだが、いわゆる“言語学習の臨界期”をすぎた成人が外国語（あるいは第二言語）として沖縄語を学ぼうとする際、いろいろな壁にぶつかることが多いようである。沖縄県外で沖縄語を学ぼうしても公民館などの講座でこの言語の講座が設けられることはまれであり⁴、国内でおそらく商業ベースで沖縄語の講座が開講されている唯一の教育機関（東京都内にある「大学書林語学アカデミー」）においても、沖縄語のグループ・レッスンはこの数年開講されていないようである。また独学しようとしても学習書などの教材が十分に整備されているとはいえない。

本稿はこのような状況を考えて、筆者の携わってきた日本語教育の方法論を応用した沖縄語学習・教育を構想しているのだが、その一部として作成中の沖縄語の教科書について現段階までの経過を述べながら、の中で生じてきた問題について考えたい。全体の構成としては、上に述べた事情を踏まえ、次章で比較的近年出版された沖縄語の学習書3冊と琉球諸語のひとつを取りあげた継承教育についての論文を検討する。つづく3章で沖縄語と日本語との類似性を確認した後で、初級日本語教育においてどのように文型がたてられているかを紹介し、それを参考にした初級沖縄語教育の文型案を示す。4章でそこで見えてきた課題について、いくつかの問題を考察し、最後に全体をまとめる。

2. 最近の「沖縄語」学習書・琉球諸語の継承教育の研究について

まず本稿の執筆時点で入手が比較的容易な沖縄語の学習書や琉球諸語の継承教育の研究について見てみることにしよう。

2.1. 「沖縄語」学習書

①吉屋松金1999『実践うちなあぐち教本』南謡出版

「例文・解説編」（文法解説）と「散文編」（沖縄語と日本語の対訳テキスト）からなり、「例文・解説編」では40章にわたって沖縄語の文法が例文とともに述べられている⁵。「例文・解説編」のはじめの10章を見ると、以下のようにになっている。

第1章 品詞／第2章 存在動詞概説／第3章 存在文およびヤ系係助詞／第4章 形容詞概説／第5章 形容文／第6章 動詞概説／第7章 助動詞概説／第8章 動詞文と自動

3 本稿では、奄美～八重山で話されている言語を「琉球諸語」とし、沖縄本島中南部において話されている「沖縄中南部方言」（cf. 亀井孝・河野六郎・千野栄一編1992『言語学大辞典 下-2』三省堂）を「沖縄語」と呼ぶ。なおここでいう「日本語」とは日本記号・音声学において「共通語」「標準語」「東京方言」といわれるものをさす。

4 確認し得た範囲では東京都品川区に「沖縄語を話す会」が1987年から存在し、現在でも月2回の活動を続けている。

5 発音についてはごく簡単に触れられているだけである。

文／第9章 他動文と目的語「-を～する」等／第10章 変成文「-になる」／

名詞述語文を作る接辞である「やん・やいびーん（「だ・です」）」を“存在動詞”とし、テ形に相当するものを“補助連用形”とするなど独自の用語法が使われているものの、章立ては品詞別（さらに表現別）の編成であり、それらはいわゆる学校文法のものに近い。2.2でも触れるが、学校文法はその言語を第一言語として身につけたものが（標準的な）書き言葉を習得するためのもの（あるいは古典語の文法を学ぶための基礎として勉強するもの）であるため、外国語あるいは第二言語として言葉を学ぶものがこのような目次編成のもので学習しようとするには無理を伴うのではないだろうか。冒頭にある「はじめに」の「小著の読み方」をみると、著者の意図としては入門書としての使用をも想定しているようだが、沖縄語の初学者がこの書物をあたまから読む“入門書”として用いるのはあまり適切ではないし、困難が多いだろうと思われる。

とはいえ、独特の用語法に慣れる必要はあるにせよ、多くの例文があげられていることから学習者が参考にする“参照文法”的に使用するなら便利なものであろう⁶。

②西岡敏・仲原譲2006『沖縄語の入門—たのしいウチナーグチー（CDつき改訂版）』（白水社）

2000年に発刊され、2006年にCD付で改訂版が刊行された本書は、すぐれた琉球諸語研究者である著者たちが、言語学者ならびに首里方言を母語とする話者の協力を得て作られたものであり、現在流通している沖縄語の入門書としては最も広く読まれているものである。

日本語の「アイウエオ」が沖縄語では「アイウイウ」となるという三母音の原則や、語頭の声門破裂音などの音韻論的な特徴、助詞やさまざまな接辞の用法などに加え、不規則動詞の活用などについても解説されている。

ただし、“教科書”として見た場合、問題がないわけではない。たとえば、2課で動詞の禁止形・命令形・否定形が導入されているが以下のような説明となっている（否定形で示す）

⑥動詞の否定形

否定形は、共通語の「～ない」を「～ん」にすると覚えてください。

この「～ん」は西日本でよく使われる否定形と同じですね。

カカン kakaN <書かない>	タタン tataN <立たない>
シナン sinaN <死なない>	ユマン yumaN <読まない>
フサン husaN <干さない>	トゥラン turaN <取らない>

（西岡敏・仲原譲2006:23）

ここでは沖縄語の動詞否定形を日本語の否定形から類推させており、おそらく初学者の負

6 ただし、この書物には首里方言の文法概説（国立国語研究所1963所収のものなど）に示されるものとはあきらかに異なった語形（吉屋松金1999ではたとえば過去の質問形がティ形+“i”の“-tii”ではなく、taNの尾略形に-miを付与した“-tami”とされている）などが含まれている。沖縄語中南部方言内部での地域差であろうか。

担をなるべく少なくしようという方針だろうと推測されるが、例として挙げられているのは日本語から類推可能な動詞のみである。4.1でのべるように禁止・否定・命令を作る基となる基本語幹は日本語の否定語幹とよく似ている場合が多いが、常に一致するものではない。たとえば、タシキーン（助ける）、イリーン（入れる）の否定は「助けない」「入れない」から類推される×タシキナン、×イリナンではなく、タシキラン、イリランであるし、カンジュン（かぶる）、イチャイン（会う）など日本語に対応する形がない動詞では語形の作りようがない。なお、沖縄語の動詞を活用させ、さまざまな語形を作るためには、動詞の活用のタイプ（ラ行動詞、カ行動詞など何行動詞であるか）が重要であるのだが、これについてはあまり明確に言及されていないようである。また、一般的に“外国語”の入門書では名詞文から入るのが一般的であるのだが、重要事項であるはずの名詞文の否定の形が文法項目としては立てられていない（形容詞文の否定の形の解説はあるし、名詞文の否定もダイアログの中には出てくるのではあるが）。

以上のように、動詞の語形のつくり方の説明や文法項目のたて方を見る限りにおいては、この教科書はこれだけで沖縄語の文法をシステムティックに学べる教科書とはいえない。とはいえ、ダイアログ（その内容自体が沖縄文化の紹介となっているものも多い）は興味深く覚えやすいものであるし、また第3部は琉歌から民謡、歌劇、組踊、「おもろさうし」まで沖縄の伝統芸能や文学が紹介されていて、さらに随所のコラムなどで言語学的知識（希望の接尾辞「-な」が同種の意味をあらわす古代語日本語の残存ではないか、など）も興味深く学べる工夫がなされている。付属のCDで本書の例文やダイアログが聞けることはもちろん、紹介されている沖縄文化のさまざまな音源に触れることもできることもこの本の価値を高めているだろう。今後も入門書として長く読み継がれていくものと思われる。

③船津好明2010『沖縄語さびら』（琉球新報社）

この書物は著者の船津氏が公務員として沖縄に赴任していた2年ほどの間に、沖縄語に興味を持ってこの言葉に短時間で習熟し、さらに従来からあるカナを用いた表記法では沖縄語を適切に表示できないとしていわゆる合字である「沖縄文字」を考案し、全面的に使用した教科書である。

この本においても「著者まえがき」において「沖縄語の今後の大衆的発展」がうたわれており、沖縄語の入門書・学習書として書かれたという意図は明らかなのだが、独自に創案された沖縄文字の導入・練習にかなりの紙幅を費やしているため、導入されている文法項目は限定されているし、提出順序なども考慮されていないようである。たとえば、1章で名詞文が提出されているにもかかわらず、続いて提出されるべき名詞文の否定形は21課、名詞文の質問文は37章となっているところなどは、学習書として大きな問題であろう。

2.2. 他の琉球諸語の継承教育の研究・教材について

沖縄語をあつかったものではないが、教材案の例示までおよんでいるものとして徳永希恵2011をとりあげる⁷。この論文は（南琉球）多良間島方言の継承の実態について調査したアンケート結果などを示しつつ、多良間島方言の教育について考察した論文であり、方言継承の実態についておこなったアンケート調査の結果を示しながら、この言語の危機的な状態を

指摘する。また発音と文法についての教材案を一部ながら示している。そのなかの「多良間方言の文法」内容一例は以下のようにになっている。

◆名詞の格

○ガ格

ガ格をとまなう名詞は、文のなかで主語としてはたります。標準語の「～が」と語形が対応します。標準語では「～が」と訳します。

タローガ ミナカン アスピー ブリ°。

[tarō:ga minakaN asubi: buL]

(太郎が 庭で 遊んで いる。)

キング カーラキイ°。

[kiMga ka:rakɪ]

(着物が 乾く。)

また、ガ格の名詞は、あとにつづくべつの名詞とくみあわさって、お互いの関係性を規定するはたらしきもあります。このとき標準語では「～の」と訳します。

アンナガ トゥビイ° キンユ ミツイ°キタリーユ。

[aNnaga tubi kɪMju mic:kitari:ju.]

(お母さんの 飛び 着物を 見つけました。) * 「飛び着物」 = 「天の羽衣」のこと

クレー ダーガ ムーヌ。

[kure: ta:ga mu:nu.]

(これは 誰の 物か。)

提示されている教材はごく一部であり、文法について目次案が書かれているわけではないので上に示された例だけから判断するのはあまり適切ではないかもしれないのだが、著者自身が上記の「内容例」を「作成にあたって…参考にした」としている明星学園・国語部1965、1968（『にっぽんご3の上』、『にっぽんご4の上⁸』）は既に母語（第一言語）として「日本語」を身につけている児童・生徒が書き言葉としての標準語を学ぶためのものであり、徳永希恵2011が全体の構成においてもそれと類似するものを構想していたとしたら、多良間島方言を外国語（第二言語）として学ぶための教科書としてはあまり適切なものではないのではないかと思われる。

以上のように、沖縄語あるいは琉球諸語において教科書や学習書が書かれてきたが、管見

7 同じ研究室からの沖縄語のテキスト作成の試みとしては琉球大学法文学部琉球方言研究室編2011（『平安座島の方言』）がある。2008年8月から2010年12月にわたっておこなわれた平安座島の現地調査に基づくものであるが、発音の解説が大部分であり、語彙については少し提示があるが、文法についての解説はない。

8 『にっぽんご』シリーズは、1960年代から70年代にかけて、かなり広くもちいられた児童・生徒のための日本語の教科書である。

の限りでは日本語母語話者のための国語教育で用いられているものに依拠するものが多く、外国語教授法の成果を取り入れているものは見られないようである。

3. 沖縄語教育への初級日本語教育の方法の適用

3.1. 日本語と沖縄語の類似性

さて、琉球諸語は日本語と系統関係が証明されている唯一の言語であり（Chamberlain (1895)、服部四郎1959など）、それに属する沖縄語と日本語は基礎語彙の多くは共通あるいは規則的な音変化をしているためよく似ているし、語順も基本的にはほぼ一致する（修飾語の位置など細部の検討は必要だと思われるが）。

- (1) 目：ミー 口：クチ 歯：ハー 鼻：ハナ 手：ティー 葉：ファー 木：キー
- (2) ワンネー シートゥ ヤイビーン．（私は学生です）
私+は 学生 繫辞・丁寧体・非過去
- (3) ヤマダ-サノー ナーファ-ヌ マチ-ンカイ 'ンジャン．（山田さんは那覇の町に行く）
山田 さん+は 那覇-の 町 -に 行く．普通体．完成相．過去．叙述法
- (4) チヌー サーターアングギー カマビタン．（昨日、サーターアングギーを食べました）
昨日．はだか格 サーターアングギー．はだか格 食べる．丁寧体．完成相．過去．叙述法

品詞も日本語のものと同様のものがたてられ（動詞、形容詞、名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞）、格助辞やとりたて助辞などの助辞（助詞）の体系、用言の文法的カテゴリー（切れ続き、ヴォイス、テンス、アスペクト、ムード）や敬語体系、指示語の体系も日本語と同様のものが存在する（もちろんそれぞれ形式の意味・用法は、場合により大きな異なりを見せる）。

上のことは日本語と琉球諸語とが祖語を同じくすることからすれば当然のことであるのだが、だとすれば、戦前からの長い歴史があり研究のすすんでいる日本語教育の方法論を応用することにより、体系的な沖縄語教育の教授法・教材作成が可能であり、学習の効率を高めることが出来るのではないかということが考えられる。

3.2. 初級日本語教育の文型の配置

たとえば、初級日本語教育で広く用いられている文型シラバスの教科書『みんなの日本語』『新文化初級日本語』『初級日本語』では文型は以下の表1のように配置されている（最初の数課をあげる）⁹。これらの教科書は、1970年代から（改訂を重ねた結果、当初の書名と異なっている）、いわゆる文型シラバスの初級日本語教科書として広く使われているものである。これらの教科書において共通に見られることは、簡単な構造の文から初めて既習の知識を使いながらだんだんと文型を積み上げていくことであり、いくらかの異同はあるにせよ（たとえば、形容詞を先に導入するか動詞文をまず紹介するか、はじめて動詞を導入する際に補

9 教科書の課の数が違うので、扱う分液の紹介は冒頭からの大体全体の1/5とした。

語を必要としないものから導入するか否か、文法項目として動詞の自他对立を教えていないものがある、など) 大勢としては初級日本語教育において導入すべき項目や提出順序に大きな共通点があることが見て取れるだろう。

みんなの日本語 (全50課)		新文化初級日本語 (全36課)		初級日本語 (全27課)	
課	文型	課	文型	課	文型
1	NはNです NはNじゃ(では)ありません NはNですか NもNです NはNのNです NはN歳です	1	Nですか・はい、Nです 何時ですか。 NからNまで NのN N月N日 いつですか NとN	1	NはNです、NはNですか、NのN、これ/それ/あれ この/その/あのN N1ですかN2ですか なんですか だれですか だれのNですか Nも~です Nはどれですか Nはこれ/それ/あれですか どのNですか NとN
2	これはNです、これはNのNです、これはNのNです、このNはNのNです	2	何ですか Nじゃありません N1のN2⇒N1の Nも	2	ここはN[場所]です N[場所]はどこですか Nはいくらですか NはAiいです Aiくないです AiいN どんなNですか …。そして~ 今何時ですか
3	ここはNです Nはあそこです 国/会社はNです NはNのNです NはN円です	3	この/その/あの AiいN どれですか AiいN⇒Aiの	3	ここはN[場所]です N[場所]はどこですか Nはいくらですか NはAiいです Aiくないです AiいN どんなNですか …。そして~ 今何時ですか
4	N時N分です NはN時からN時までです NはN曜日とN曜日です NからNまでNます N時にNます Nます/ません/ました/ませんでした 電話番号はNです	4	Aiです/Aiくありません Anaです/Anaじゃありません AnaなN	4	NをVます/Vません 何をVますか NをVましたきのうNをVました NをVませんでした N[場所]でVます どこでVますかきのうN[場所]でなにをVましたか N1はNをVます。N2もNをVます NはN1をVます。N2もVます。 NはあしたNをVます。あさってもNをVます。まいにちVます 日よう日にVます …。そして、… N1のN2→N1の Aiい
5	場所へ行きます 乗り物でいきます 人と行きます 日時に行きます 誕生日はN月N日です	5	N[場所]にNがあります N[場所]にNがいます NやN(など)何が/誰が Nはどこにありますか/どこですか	5	NをVます Nへ行きます NでVます N[時間]にVます/朝Vます Vますか/Vません NではVません NかNよくVます/あまりVません NはNが好きです どんなN(辞書形の作り方)
6	NをNます 場所でNます いっしょにNませんか Nましょう	6	NをVます Nへ行きます NでVます N[時間]にVます/朝Vます Vますか/Vません NではVません NかNよくVます/あまりVません NはNが好きです どんなN(辞書形の作り方)	6	NをVます Nへ行きます NでVます N[時間]にVます/朝Vます Vますか/Vません NではVません NかNよくVます/あまりVません NはNが好きです どんなN(辞書形の作り方)
7	N[道具・言語・手段]でNます 私は人に物をあげます わたしは人に物をもらいます もうNました/まだです	7	Vました/Vませんでした …。それから… 何か/どこかで/どこかへVましたか …。でも …(時の言い方) AiくてAiい Anaで Anaな Nだけ	7	N1はN2でした N1はN2ではありませんでした N[場所]へ行きます N[場所]から来ます いつ どの国の人ですか N1とN2のNは同じです N1はN2で、N3はN4です(いっしょに)Vましょう
8	Nはな形容詞です/じゃありません Nはい形容詞です/くないです Nはな形容詞な名詞です Nはい形容詞名詞です	8	何日間/どのくらい Aiかったです/Aiくありませんでした Anaでした/じゃありませんでした Nでした/Nじゃありませんでした …が … Nは…が Nは… AiくてAi	8	N[時間]からN[時間]までいつからいつまでですか 時間の言い方(時分秒) Nぐらい Nは何しゅうかんぐらいですか N[場所]からN[場所]まで N[乗り物]で行きます 何時間ぐらいかかりますか NはAiかったです NはAiくなかったです Nはどうですか とてもAiい たくさんV あまり+Neg …。しかし、… それから、… N1N2(N3)など
9	NはNが好きです NはNが上手です NはNがわかります NはNがあります Nから N(理由)	9	N[時間]からN[時間]までいつからいつまでですか 時間の言い方(時分秒) Nぐらい Nは何しゅうかんぐらいですか N[場所]からN[場所]まで N[乗り物]で行きます 何時間ぐらいかかりますか NはAiかったです NはAiくなかったです Nはどうですか とてもAiい たくさんV あまり+Neg …。しかし、… それから、… N1N2(N3)など	9	N[時間]からN[時間]までいつからいつまでですか 時間の言い方(時分秒) Nぐらい Nは何しゅうかんぐらいですか N[場所]からN[場所]まで N[乗り物]で行きます 何時間ぐらいかかりますか NはAiかったです NはAiくなかったです Nはどうですか とてもAiい たくさんV あまり+Neg …。しかし、… それから、… N1N2(N3)など
10	N[場所]にNがいます/あります NはNにいます/あります	10	N[場所]にNがいます/あります NはNにいます/あります	10	N[場所]にNがいます/あります NはNにいます/あります

表1

表1を見てもわかるように、文型シラバスを用いた初級日本語教科書では、「わたしはやまだです。(どうぞ よろしく)」というような「N(名詞)はNです」という名詞文から始まり、身につけやすいものから複雑なものへと、既習の学習項目の上に積み上げていく形で文法事項を学習する。表1を見ても3つの教科書すべてが「NはNです」から始まっており、形容詞文や動詞文の前に名詞文という流れは共通しているし、後半の方に出てくるた

め表1には載っていないのだが、ヴォイス（受け身・使役）や待遇表現（敬語）は最後の方で教えられるということも共通の点である。

また、これらの文型表の中に長年にわたって行われてきた日本語教育の成果の反映を見ることができる。たとえば、これらの初級日本語教科書で、文は丁寧体（「～ます」の形）を基調として導入され、しばらく後で辞書形やテ形を学ぶまでは丁寧体のみが用いられることが多い¹⁰。のだが、丁寧体基調であれば年長者や見知らぬ人に話しかける場合に失礼にならないということとともに、学習の初期段階で活用の種類（いわゆる五段、一段、サ変・カ変）の区別をしなくてすむという利点もある。

また、これも後半の教授項目であるため表1には出てきていないが、類義の形式が存在するものについては（たとえば根拠をもとにした推量「(し) そうだ」「ようだ」「らしい」「(する) そうだ」）はひとつずつ提出し、それが定着したところに次のものを出すようになっている。さらに、条件節（「～と」「～ば」「～たら」「なら」）をともなう複文は主文が非過去形のもののみを扱う、「のだ」など日常的によく使われる形式であってもすぐには身につけにくいものは項目の紹介を中心にしてあまり深く教えない（「上手に隠す」）、「は」と「が」の使い分けも文法的に明確に区別されるところ以外は学習者に必要以上に意識させないなど、文型の選定や提出提出にはさまざまな工夫がなされているといえる。

3.1. で見たように日本語と沖縄語が文法的にかなりの共通性をもつならば、上のような日本語教育で長年工夫・改良が重ねられてきた文型を参考にした初級沖縄語の学習書・教科書が作れるのではないだろうかと思われる。

3.3. 日本語教科書（初級）を参考にした「沖縄語」の文型配置案

そこで、3.2でみたような初級日本語教育をいくつか参考にしながら、初級沖縄語教科書の文型一覧を作成してみた。対象と目標は以下のとおりである。

- ・対象：日本語母語話者の大学生（大学の授業で用いることを想定）
- ・時間数：90分×15コマ×2〔春・秋学期〕、第一回はオリエンテーション、2回の試験をのぞいて27課分）
- ・目標：日本語教育N4レベルに相当する文型と語彙力を身につけ、日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば内容が聞いて理解でき、また自分の伝えたいことを沖縄語で話すことができる。

以下は、各課で提示する例文を文法解説を書きながら作成したものにもとづいた文型一覧である（「初級沖縄語教育のための教科書文型試案」、以下「試案」と略す）¹¹。

10 ただし、坂野永理ほか1999のように動詞は最初から辞書形を提示して、辞書形からマス形を作らせるものもある。

11 沖縄語の表記に関しては巻末に示した。なお、一部で必要にかぎりにおいてローマを併用したところがある。

初級沖縄語教育のための教科書文型試案 (左端の「回」は授業回)

回	課	文法項目 (日本語)	具体的な文型
1	0	沖縄語の発音と表記 (注意すべきものはいくつかのほかの課であつかう)、数字 (1~10)	母音と子音。長音、撥音、促音、数字 (1~10)。「三母音の原則」(具体例を出す)、(あいざつ)、数字
2	1	人称代名詞/名詞文/「の」/肯否質問文・応答/指示語1 (ウレー、アレー) / 疑問詞疑問文/年齢の聞き方	ワンネー Nヤイビーン/NヌN/ウンジョー Nヤイビーミ/ウー・ウーウー/ウレー・アレー Nヤイビーン・ミ/ウレー・アレー ヌーヤイビーガ/ウンジョー イクチ ヤイビーガ
3	2	主題の形の作り方/形容詞文/名詞文の否定の形/指示語2 (クリ/ウリ) / 形容詞文の否定/も/場所の言い方・場所のたずね方	ウリ→ウレー…、/ウレー アカサイビーン/ワンネー ヤマトンチョー アイビラン/ウンジョー ウチナンチョー アイビラニ/クレー・ウレー ワー ムヌ ヤイビーン/ウレー マギコー ネーン/クマ・ウマ・アマー 教室 ヤイビーン/ウンジュヌ 'ヤーヤ マーヤイビーガ
4	3	動詞文叙述文 [非過去] / 動詞文 (対格) / 動詞の否定/肯否質問文・疑問詞疑問文/叙述文 [過去] / 動作の場所/時の言い方	ヤマダサノー メーナチ ルクジニ ウキヤビーン/ワンネー スムチユマビーン/ウンジョー ラジオ チチャビーミ/ウンジョー スーカマビーガ/ワンネー 図書館 'ウティ 勉強サビーン/アチャ・日曜日ニ・メーナチ
5	4	移動動詞/NからNまで/形容詞の過去/形容詞の否定過去/名詞文過去/名詞文否定過去/時間名詞の使い方/いつ	ウチナンカイ イチャビーン・チャービーン・ケーヤビーン/Nンカイ イチャビーン/チヌーヤ イチユナサビータン/チヌーヤ アチコー ネーヤビランタン/チヌーヤ カヨウビ ヤイビタン/アレーガクセーヤ アイビランタン/タルーヤ アチャ エイガ 'ンージャビーン/ウンジョー イチ アヌ エイガ 'ンージャビーガ
6	5	到着・出発の動詞/手段の言い方/期間/Nはどうですか/程度の表現/上下左右前後(位置をあらわす名詞)など/終助辞①	ワンネー モノレールンカイ スイビーン・アヌ ッチョー バスφ ウリヤビーン/エンピツツシ ジー カチャビーン/チヌーヤ 2ジカン(グレー) ベンチョー サビタン/ウヌ スムチュー チャー ヤイビーガ/ウヌ エイガー アンスカ ウムサコー ネーヤビランタン/a: スムチュー マー ヤイビーガ b: ツクエヌ ウィー ヤイビーン
7	6	存在動詞(あいびーん・ういびーん) / なにか・だれか/いくつ・何人の聞き方/存在文の否定(ねーやびらん)	ツクエヌ ウィーンカイ スムチヌ アイビーン/ヌーガナ アイビーミ/ウンジュヌ トウジュー マーンカイ 'ウイビーガ/ウヌ アツマインカエー ガクセーヤ ミッタイ チャービーン/ヘヤヌ ナーカンカイ チュヌ イクタイ 'ウイビーガ/マジュン ウチナンカイ イチャビラ
8	7	形容詞の連体形と辞書形/様子の聞き方(チャヌヨーナ) / N・Aク ナイビーン (~に/く なります) / もう・まだ/主格 [ヒト・代名詞] の「ヌ・ガ」 / 全否定の形①	カナサイビーン→カナサン、カナサル ウィナグワラベー/A: フジサノー チャヌヨーナ ヤマ ヤイビーガ B: タカサル ヤマ ヤイビーン/アレー プロ野球選手φ ナイビーン/ナツヤスマיעー ナーダ ウワイビラン/アヌ チョガ ガッコーンカイ イチャビーン。/サイフヌ ナーカンカイ イチエンヌン ネーヤビラン
9	8	動詞の辞書形/日本語と似ている動詞/Vン(ディ) チ ヤイビーン (Vつもりです) / 空間化の手つづき/全否定②/過去の質問文	チューヤ ディズニールンカイ イチュンドー/アン(ある) 'ウン(いる) カチュン(書く) サチュン(咲く) …/チューヤ ユクユンディチ ヤイビーン/ナマカラ 'ウバマー トウクルンカイ イチャビーン/チヌー ワンネー スーン カマビランタン/'ヤーヤ チヌー アヌ テレビ ンーチー
10	9	動詞の連体形/動詞の連体用法/推量(ハジヤイビーン) / N(場所) ウトーティN(出来事)ヌ アイビー/理由の表現 (~クトゥ) / 「Nヤ」と「Nヌ/ガ」の使い分け	トウイス トゥバビーン→トウイス トゥブン/フィージャーヤ クサカムル イチムン ヤイビーン/アチャー アミヌ フリエル ハジヤイーン/チューヤ アミヌ フィクトゥ、カサ ムッチイカ/ウチナーウーテエー ルクグワチニ アミヌ ウフォーク フィビーン・ターガチャービタガ
11	10	動詞の否定の形/しななければならない/Vnegの質問文/ワンとワー、ワッター/Nンカイ・トゥV	シマビーン→シマン/シートウヌチャーヤ ガッコウンカイ イカンドレーナイビラン/タルーヤ ガッコーンカイ イカニ/ワームン・ワーガ…/チヌー ワンネー ドウシグワートゥ イチャビタン
12	11	~が…(~シガ…) / N1は~が、Nは~と(引用の助辞) / Nφ/経路をあらわす助辞/否定質問文とその答え	ワンネー ウチナンチュー ヤシガ、アンスカ スパー カマビラン/ウヌ ワラバヤ 「アガッ」ンディ アビヤビタン/シバサル ミチアッチャビーン
13	12	動詞のティ形/Vてください/Vてしまう/N1というN2/Nは Nが 多い・少ない	ササビーン→サチ/マース トウティ クイミソーレー/クワッチャーヤ ナー カディ ネーヤビラン/タナカ サンディ 'ユル ッチュ/トーキョーヤ ッチュヌ ウフサイビーン

14	13	V オーン (動詞の継続相) のつくり方/V オーン形の意味・用法/V してから/N は N が上手です・下手です/一日に五回	kamuN → kadi → kadooN…/ストウミテイカラ アミヌ フトイビーン・ソーリダイジンガ ウチナーンカイ チョーイビーン/ティアー アラテイカラ ムノー カマビーン/アヌ チョー ウドゥイジョージ ヤイビーン/クス クスエー フィッチーナカイ ミケーン スミミシエービレー
15		前期試験	
16	14	ほしいです/V したいです)・動詞の連用形/好き嫌いのいいかた/V することが好きです/～の中で	タルーヤ ジン フサン ディ イチョーイビーン/yumabiiN → yumi → yumi + busaibiiN ワンネー フィーサイビーン。ヌーガナ カミフサイビーン/ワンネー ウチナー イッペー シチャイビーン/タルーヤ エイガ 'ンージュール クトウ シチャビーン
17	15	V ても・A くても・N でも いいです/V ては いけません/V なくても・A なくとも・N でなくとも いいです/V1ル・タ時、V2/Aク (変化)	ナー ケーティン シマビーン/クマ'ウティ アシデー ナイビラン/サーターヤ イリランティン シマビーン/ウチナーンカイ チュール トウチエー、ミチトーグッシ トウキョーパバナ コーティッチ クイミソール/マギク スン
18	16	能力可能/V ルようになります/条件の形①/N1というのはN2のことで/N [時間] で (1時間で)	ウス ワラペー ナー ドウーチュエイ ッシ チノー チューサビーン/ゴーヤー カミユースル グトウ ナイビタン/'ンミプシヌ ハナシ シーネエ シーサ ウビンジャチ チンペーヌ 'ワチュン/ハツモーデ 'ユシエー ソーガチニ ジンジャンカイ イチュル クトウ ヤイビーン/サンジュップン ッシ トウジミティ クイミシエーミ
19	17	N が見えます・聞こえます/におい・味・音がします/動詞の自他/V ていきます・てきます①/V しながら	クマカラ クダガジマス ミーユン/クス ハナー イイー カジャヌ サビーン/チチュン-チキーン チワメイン-チワミーン…/クマンカイ ニムチ ウチ イチャピラ/スムチ ユマガチー アッチョーイビーン
20	18	N1はN2がA / (体調をあらわす言葉) / N1はN2より～/ N1はN2ほど/N1とN2[と]ではどちらが～か/	ゾーヤ ハナヌ ナガサイビーン/ワンネー ドウーヌ ダルサイビーン/ゾーヤ ウシヤカ マギサイビーン/オオシロサノー ナカマサン アタイ フェーク ハーエーシ ユーサビラン/タルートウ ジルートオー ジルガ フドゥス タカサイビーミ/
21	19	V たことがあります/一度も (～ない) /ガ (推量) /N1ではN2が一番～/～のようです	フィージャー カダルクトウス アイビーミ。ウー、チュケーン アイビーン。/ワンネー ヒコーキンカイ チュケーン スダル クトーネーヤピラン/ 'ヤー チュイ ヤラチ、クサカイシミーネー、イチガ ナイラ ワカラン クトウヤー/ウチナー 'ウチエー ナーファヌ イッチン マギサル マチ ヤイビーン/シグトウス アトゥ、ビール スミーネー、イチゲール グトーイビーン
22	20	条件可能/V1ために、V2/V1でV2 [様態] /V1ないで、V2	アミヌ フトールクトウ、フカンカイ インジラリラン/ダイガクンカイ イールタミネー チパティ ベンキョーサンダレーナイピラン/ガッコンカイ ハーエーッシ イチャビーン/アレー ガッコーヤ イカン (グトウ)、パチンコピケンドウ ソール
23	21	エー条件① [動詞] /エー条件形② (名詞・形容詞) /V ても、～/例示のグトーン	語形のつくり方 トゥラー シネー、カー スクサビーン/ウス ミチヌ ウカーコー ネーランドレー、トゥーイビーン/アミヌ フリティン、コクサイドーリンカイ イチャビーン/ナーファヌ グトール マギサル マチ
24	22	ラー条件形 (V なら) /フィッチー・ニンジュー/「まで」と「までに」/A (い) -く V/V すればばいい	A:「ライシエー、トーキョーンカイ イチュンドー」 B:「トーキョーンカイ イチュラー、スカイツリー ンーチ クーワヤー」/チューヤ フィッチー イチュナサイビーン/クス スムチ アチャ マディニ ユドーティ クイミシエービレー/クチマギク アキティ ヌーディヌ ウク ミシティ クイミシエービレー/チャー セー シムガ
25	23	V ておく/ようだ (推量) /経路をあらわすカラ/連体詞	ライシエウ、シケンヌ アクトウ、ウフオーク ベンキョー ソーケーヤー/アチャー アミヌ フィル グトーイビーン/ゴジューハチゴセーカラ イチャビーン/'イー・'ユヌ ムン
26	24	受け身/A・Vren そうだ/シヨッタ形/強調構文	シートウヤ シンシーンカイ フミラリーン/チューヤ シダギサル チン チョーイビーン ヤー/アレー ケーキ カムタンドー/ウス マドゥ ワタシエー シエー ター ヤガ
27	25	使役の形/まだ V ていません/～ように (目的)	センセーヤ タルー トーキョーンカイ イカスン/ナーダ ユデー ウイビラン/アトゥデ カマリールグトウ、レーゾーコンカイ イリトーティ トウラシエー
28	26	V テーン形/N がいます/否定質問文とその答え/尊敬語	ウサラス カランカイ ナトーン。タルーヤ カマンディ イチャルムニス、カデー/ユスグニンカイ イチュル パスネー、パスポートヌ イリヤビーン/ウンジュン イチュナサイピラミ? ウーウー、ワンニン イチュナサイピラン/センセーヤ チヌー プール ウトーティ ウイージミソーチン
29	27	謙譲語/V ていく・くる (アスペクト的用法) /終助辞②	カチョーヌ ヤーンカイ ユシリヤピタン/カガコー ナママデ ススディ チャーピタン/ (終助辞)
30		後期試験	

試案は先に記したようにいくつかの日本語初級教科書を参考にしたものであるが、3.1でのべたように日本語と沖縄語は祖語を共通とするものであり、基礎語彙や語順、文法カテゴリーはほぼ一致し、対応する形を考えれば理解できるものがある一方、それぞれの言語は長年の変化で大きな変化を遂げたため、意思疎通が不可能なほど異なっているところが多い。そのため、文型の選定や提出順序、また説明の仕方も独自の工夫が必要になってくる。ふたつほど例をあげてみよう。

- a. たとえば、表1の各教科書では第1課で名詞文の形「NはNです」が提出されるが、日本語の場合、名詞(相当)のものに「は」をつければ主題の形になる。一方、沖縄語の場合、名詞の主題の形(「～は」に相当するもの)は以下のように名詞の語末の音によって語形が異なり、やや複雑である。

(1)チラ [顔] cir ^a → cir ^{aa} チラー [顔は] (- ^a → - ^{aa}) ア段でおわる音 → 「アー」
(2)アリ [あれ] ?ar ⁱ → ?aree アレー [あれは] (- ⁱ → ee) イ段でおわる音 → エ段の長音
(3)ツチュ [人] Qc ^u → Qc ^{oo} ツチョー [人は] (- ^u → oo) ウ段でおわる音 → オ段の長音
(4)チュー [今日] c ^{uu} → cuu-ya チューヤ [きょうは] (- ^u → -ya)
(5)～サン [～さん] ～ sa ^N → ～ sanoo ヤマダサノー [山田さんは] (- ^N → noo)
例外: ワン [私] wa ^N → waN ^{nee} ワンネー [私は]

試案の第1課では「NはNです」「NのN」「NはNですか」「Nは何ですか」などの文型を導入するが、教授事項が多くなり過ぎないように上の(1)～(5)は教えず、主語になるものは「わたしは:ワンネー」「あなたは:ウンジョー」「これは:ウレー」「あれは:アレー」のみを主題の形として提示し(訳語も「わたしは」「あなたは」…のように全体で示す)、主題の形のつくり方は2課で取り上げることにした。主題の形は日本語の「～では(じゃ)ありません」のように否定の形にも関係してくるため、名詞文の否定(表1の『みんなの日本語』『初級日本語』では第1課の項目)「私は学生ではありません:ワンネー シートー アイビラン」も試案では第2課で導入することとした。

- b. 表1でみた日本語教科書ではまず動詞は丁寧体(「～ます」)で導入され辞書形・否定形とテ形(音便語幹)を後に学ぶようになっている。日本語の辞書形・否定形などは活用のタイプ(五段動詞か一段動詞かサ・カ変動詞か)を覚えれば規則的に作ることができるが、テ形の場合、五段動詞は行によって語尾が異なっており複雑である。

さて、沖縄語では動詞に辞書形を作る連用語幹のほかに基本語幹(否定形などを作る)、音便語幹(テ形に相当する形を作る)の三つの語幹が存在するため、事情はさらに複雑である。試案では丁寧体(ビーン体)を基調とし、丁寧体から否定形を作るための次のような説明を試みた。

・動詞の否定形

① ビーンの前が「ナ・マ・サ・バ」：ビーン→ン

ビーンの前が「ナ・マ・サ・バ」の時はビーンを次の形に変えれば否定の形が出来ます。

シナビーン (死にます) ユマビーン (読みます) ササビーン (刺します)

トゥバビーン (飛びます)

→シナン (死なない：ナ行) →ユマン (読まない：マ行) →ササン (刺さない：サ行) →トゥ
バン (飛ばない：バ行)

② ビーンの前が「ヤ・イ」：イビーン→ラン

ビーンの前が「ヤ・イ」の時はビーンをランに変えれば否定の形が出来ます。これらはラ行動詞です。

トゥイビーン (取ります) コーイビーン (買います) カキヤビーン (掛けます)

→トゥラン (取らない：ラ行) →コーラン (買わない：ラ行) →カキラン (掛けない：ラ行)

③ ビーンの前が「チャ」：a. チャビーン→カン b. チャビーン→タン

ビーンの前が「チャ」の場合は2つのタイプがあります。

a. カチャビーン (書きます) ナチャビーン (泣きます) フチャビーン

→カカン (書かない：カ行動詞)

b. カチャビーン (勝ちます) タチャビーン (立ちます) ウチャビーン (打ちます)

→カタン (勝たない：タ行動詞) →タタン (立たない) →ウタン (打たない)

※ - チャビーンがカbかは日本語から類推できます。書きます→書かない 勝ちます→勝たない

④ ビーンの前が「ジャ」：a. ジャビーン→ガン b. ジャビーン→ダン

a. ウィージャビーン (泳ぎます) ヌジャビーン (脱ぎます)

→ウィーガン (泳がない) →ヌガン

b. ニンジャビーン (寝ます) カンジュン (かぶります)

→ニンダン (寝ない：ダ行動詞) →カンダン (被らない) →ンーダン

a. は日本語から予測できます。またbは初級では2つだけです。数が少ないので覚えてください。

不規則変化動詞は次のように変化します。

サビーン (します) →サン チャービーン (来ます) →ッチ

ヤビーン (いいます) →イチ イチャビーン →ンジ (行きます) 'ンジ

日本語のテ形にあたる音便語幹の形(「ティ形」)も同じくらいの紙幅を使って説明する必要がある(試案ではこれらはそれぞれ10課と12課で扱った)。初級沖縄語教育では初級日本語文法の“山場”であるテ形に相当する形が、2回出てくるということになる。

4. 課題

3に示したような文型の配置案を作成済みであるが、現在は例文と本文会話を検討し、ま

た練習問題を作成しているところである。しかし、試案について上で示したようなものでいいのかについては現時点でも検討の余地があるだろう。試案の記述にあたって問題となったところを数点述べておく。

4.1. 述語は丁寧体を基調とするか普通体を基調とするか

3.3のbでのべたように試案では丁寧体を基調としたが、日本語の動詞との形の近さでいえば普通体肯定系→否定形→禁止形の順で類推がつきやすくなる。禁止の形では日本語と同形になるものも多い。

丁寧体・非過去	普通体・辞書形	否定形	禁止形
カマビーン(食べます)	カムン	カマン	カムナ
ヌマビーン(飲みます)	ヌムン	ヌマン	ヌムナ
カチャビーン(書きます)	カチュン	カカン	カクナ
カチャビーン(勝ちます)	カチュン	カタン	カツナ
ウチャビーン(打ちます)	ウチュン	ウタン	ウツナ
サワジャビーン(騒ぎます)	サワジュン	サワガン	サワグナ

形容詞の場合も同様で丁寧体よりも普通体の方が日本語の形に近い。試案では丁寧体の方が失礼になる危険性が少ないこと、ある程度、用言の使い方(むすびつく格など)を身につけてから活用を学ぶという初級日本語教科書のやり方を踏襲したのだが、これは外国人学習者に日本語を教える時の方法であり、学習者が日本語母語話者で日本語の知識を活用できるということを考えればはじめから普通体で導入する方法を模索してもいいかもしれない。

4.2. 研究の不十分な項目の扱い

沖縄語の文法であまり研究されていないものが多数残っており、指示語の問題もその一つである。沖縄語にも指示語として「ku,u,a」(日本語のコソアに対応)の体系があるが、その指示領域は日本語とかなり異なる。現場指示のものに限っても、たとえば、Aが手元のものを指さしてBに、

(6) A: ウレー ヌー ヤイビー ガ、 (これはなんですか)
それ+は 何 繫辞. 丁寧体. 疑問詞疑問法
と聞き、

(7) B: ウレー クワーシーグワー ヤイビーン (それはお菓子です)
それ+は 菓子-指小詞 繫辞. 丁寧体. 叙述法
と答えることが可能である。また、「ここにすわれ」というのは、

(8) ウマ-ンカイ ‘イレー (ここに 座れ)
そこ - に 座る. 普通体. 完成相. 命令法
のように日本語のソ形にあたるものを使うのが普通で、コ形を用いた、

(9)クマ - ンカイ ‘イレー (ここに 座れ)
 ここ - に 座る + 普通体 + 完成相 + 命令法

では話し手の膝の上に座れといっているような感じを受けるという。津波古敏子1992が「ウ系の指示語がコ系に浸透し」というのはこのことをさすのであろう。ただし、沖縄語の指示語についての体系的な研究は見当たらない(萩野千沙子2009など石垣方言について研究はある)。試案の文法解説では共通語のコソアについて解説し、それにつづけて共通語の体系とは異なることを示した。

4.3. テキストであつかう単語・表現について

①国立国語研究所1963は戦後まもなくの時期に首里の士族階級出身の島袋盛敏氏が執筆した原稿に言語学的検討を加えて作られたものであり、現在70代の首里方言話者でも使用しないという語が非常に多い。逆に、現代で頻繁に用いられる語でこの辞書に登録されていないものも多い。たとえば、「住む」という語が国立国語研究所1963にはみあたらず、沖縄言語県有センターのウェブサイトにある「首里・那覇方言データベース」では「新語?」とされている。また同じ辞書で「部屋」「椅子」をひくと「ザシチ」「イー」となっているのだが、首里方言話者(70代)に聞いたところ、

(11)ザシチ - ンカイ イリーン
 部屋 - に 入る

と言うと伝統的な赤瓦の沖縄家屋の部屋(ザシチは「座敷」から来ている)に入るというイメージであり、また、

(12)‘イー - ンカイ ‘イーン
 椅子 - に 座る

では座布団のような伝統的な腰掛にすわるという印象があるという。現代の生活のことを言いたいなら、

(13)ヘヤ - ンカイ イリーン イス - ンカイ ‘イーン
 部屋 - に はある 椅子 - に すわる

のように「部屋」「椅子」をそのまま使った方がよいのではという話であった。

テレビ、パソコン、スマート・フォンなどは昔なかったものはそのままの形で使用するのがふつうだろう。伝統的な方言で生活していた時代と現代の都市生活は異なるし、それによって使う語彙が異なってくるのは当然であろう。

②漢語をどのように読むかということも問題となる。たとえば、「先生」「生徒」を“3母音の原則”通り「シンシー」「シートゥ」というか、日本語と合わせて「センセー」「セート」

というか。また、(14)のように漢語であらわされる抽象的な概念を、そのままにするか翻訳的にあらわすということも、頭を悩まされる問題である。

- (14) a. ユーメーナ スムチ (有名な本)
 有名-ナ 本
 b. ナーダカサル スムチ (名高い=有名な本)
 名 高い.連体 本

日本語同様、積極的に漢語や外来語を使うこと(吉屋松金1999)を進める立場もある。ラジオ沖縄で放送されている「方言ニュース」は沖縄で発行されている新聞を沖縄語に訳して放送する番組であるが、その書き起こしを見ても、漢語・外来語は「改修工事」「展示」「オープン」「コーナー」など無理に沖縄語にするとかえってわかりにくそうになるものは、そのまま使っているところも多い。沖縄語が第一言語である高齢の方と会話をしたいのか、会話するとしても沖縄語学習者同士とするのかという状況によってどこまで漢語・外来語を使用するかが変わってくるのではないと思われる。

③さらに、よく話題にされることだが、沖縄語にはもともと定型のあいさつがなく(儀間進1987など)、「おはようございます」というあいさつなら、家の中では目上に対しては、

- (15)ウーキ ミシェービティー (お起きになりましたか)
 丁寧接頭辞-おきる.連用形 丁寧動詞.過去.質問

と言い、同様に家の外で立っている人に対しては、

- (16)ウタチ ミシェービティー (お立ちになりましたか)
 丁寧接頭辞--立つ.連用形 丁寧動詞.過去.質問

などと場面によって使い分ける、あるいは状況に応じて考えなければならないといわれるのだが、それでは不便だからと新しいあいさつ言葉を提案している団体もある。しかし、それに対して日本語の直訳では沖縄の伝統的な文化を伝えていくことにはならないという意見もあるという。これは何が沖縄語的か、さらには「伝統」とは何かという問題につながっていく。

今回の教科書作成については、上記の点についてはまだ方針が定めきれていない状況であり、会話文作成を進めていく中で、暫定的にせよ方針を決めていく予定である。

5. おわりに

本稿では、冒頭に述べたように、現在比較的入手可能な沖縄語学習の不備を指摘し、初級日本語教育の文型を参考にした文型一覧の試案を提示し、その際に問題となったいくつかの

点について述べた。比較的研究が進んでいる沖縄語でも、辞書の編さんにくらべて文法の研究などは遅れているのが現状であり、包括的な記述文法書（参照文法）はまだ書かれていない。このように基礎研究の十分でない言語の教科書作成はかなり困難なものであることが予想される課題は多い。

筆者は現代日本語の文法を専門領域とするものであり、動詞の終止形のムードの多様さにひかれて沖縄語の学習を始めたのであるが、日頃携わっている日本語研究と日本語教育の関係を考えてみても日本語教育の実践に伴って文法や語彙記述のテーマが見いだされ、結果として日本語の研究自体も進展してきたということは衆目の一致するところであろう（その代表的な成果としては寺村秀夫1982～1991『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』くろしお出版、森田良行1989『基礎日本語辞典』角川書店、などがある）。上で述べた日本語教育と日本語研究の関係のように、沖縄語教育のための教科書作成により、これまでの沖縄語研究に何が欠けていたのか、どのような研究が体系的な文法記述や語彙の記述に必要なかという示唆を与えることが可能であると思われる。初級沖縄語教科書の作成をすすめていくことで、自らも学びつつ研究を進め、沖縄語の文法や語彙の研究に新たな一石を投じることができたらと考えている。

参考文献

- かりまたしげひさ2012～13「はじめての人のためのシマクッパの文法（1）～（4）」
シマクトゥバ・プロジェクト「シマクトゥバを知る」連続講義資料（於 沖縄県立博物館）
2013「方言の継承教育に必要な教材と参考資料」
『危機的な状況にある言語・方言の保存・記録に係る取組等の実態に関する調査研究事業』
琉球大学
- 荻野千砂子2009「琉球八重山方言の指示詞について」
『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』41号
- 儀間 進1987『うちなあぐちフィーリング』沖縄タイムス社
- 工藤真由美・高江洲頼子・八亀裕美「首里方言のテンス・アスペクト・エヴィデンシャル
ティー」2007『大阪大学大学院文学研究科紀要47』大阪大学
- 砂辺祥子2009「読谷村字座喜味方言のおしはかり表現」琉球大学卒業論文（『琉球語研究3』
に所収）
- スリーエー・ネットワーク編1998『みんなの日本語』スリーエー・ネットワーク
- 田代竜也2011「沖縄中南部方言における与格の名詞と動詞とのくみあわせ」
琉球大学卒業論文（要約版『琉球語研究3』に所収）
- 津波古敏子1992「沖縄語中南部方言」河野六郎・亀井孝・千野栄一編1992『言語学大辞典』
三省堂、所収
- 徳永希恵2011「多良間方言の教育方法とその教材研究」琉球大学卒業論文（『琉球語研究3』
所収の要約版による）
- 西岡敏・仲原讓2006『沖縄語の入門 たのしいウチナーグチ—CD付改訂版—』白水社

坂野永理ほか2011『初級日本語 げんき 第二版』ジャパン・タイムズ

船津好明2010『沖縄口さびら』琉球新報社

明星学園・国語部1965『にっぽんご 3の上』むぎ書房

_____1968『にっぽんご 4の上』むぎ書房

吉屋松金1999『実践うちなあぐち教本』南謡出版

Chamberlain, B. H. (1895) *Essay in Aid of Grammar and Dictionary of the Luchuan Language*. (山

口栄鉄訳2005『琉球語の文法と辞典』琉球新報社)

文字と発音

・下段左は本稿、右は『沖縄語辞典』（国立国語研究所 1963）のアルファベット表記

ア a ʔa	イ i ʔi	ウ u ʔu	エ e ʔe	オ o ʔo
カ ka ka	キ ki ki	ク ku ku	ケ ke ko	コ ko ko
サ sa sa	スイ si ši	ス su su	セ se se	ソ so so
タ ta ta	テイ ti ti	トゥ tu tu	テ te te	ト to to
ナ na na	ニ ni ni	ヌ nu nu	ネ ne ne	ノ no no
ハ ha ha	ヒ hi hi	フ hu hu	ヘ he he	ホ ho ho
マ ma ma	ミ mi mi	ム mu mu	メ me me	モ mo mo
ヤ ya ʔja		ユ yu ʔju		ヨ yo ʔjo
ラ Ra	リ ri ri	ル ru ru	レ re re	ロ ro ro
ワ wa ʔwa	ウィ wi ʔwi		ウェ we ʔwe	

ガ ga ga	ギ gi gi	グ gu gu	ゲ ge go	ゴ go go
ザ za za	ズイ zi zj	ズ zu zu	ゼ ze ze	ゾ zo zo
ダ da da	デイ di di	ドゥ du du	デ de de	ド do do
バ ba ba	ビ bi bi	ブ bu bu	ベ be be	ボ bo bo
パ pa pa	ピ pi pi	プ pu pu	ペ pe pe	ポ po po

キヤ kya (なし)		キユ kyu (なし)		キョ kyo (なし)
シャ sha sja	シ shi si	シュ shu sju	シェ she se	ショ sho sjo
ツァ tsa ʔa	ツイ tsi ʔi	ツ tsu ʔu	ツエ tse ʔe	ツォ tso ʔo
チャ cha ca	チ chi ci	チュ chu cu	チェ che ce	チョ cho co
ニヤ nya nja		ニユ nyu nju		ニョ nyo (なし)
ヒヤ hya (なし)		ヒユ hyu (なし)		ヒョ hyo (なし)
ミヤ mya mja		ミユ myu mju		ミョ myo mjo
リヤ rya rja		リュ ryu rju		リョ ryo rjo

ギャ gya gja		ギユ gyu gju		ギョ gyo gjo
ジャ ja za	ジ ji zi	ジュ ju zu	ジェ je ze	ジョ jo zo
ビヤ bya bja		ビユ byu bju		ビョ byo bjo
ピヤ pya pja		ピユ pyu pju		ピョ pyo pjo

クワ kwa kwa	クイ kwi kwi		クエ kwe kwo	クォ kwo kwo
グワ gwa gwa	グイ gwi gwi		グエ gwe gwe	グォ gwo (なし)
ファ hwa hwa	ファイ hwi hwi		フェ hwe hwe	フォ hwo hwo

・ヤ ʔa ʔja		・ユ ʔu ʔju		・ヨ ʔo ʔjo
・ワ ʔwa ʔwa	・ウィ ʔwi ʔwi		・ウェ ʔwe ʔwe	
(・ア ʔa [なし])	・イ i i	・ウ u u	・エ e e	・オ o o
・ン ʔN ʔN	(・メ me ʔme)			

ン N ʔN	ツ Q Q
-----------	----------

・母音以外の声門破裂は“ʔ”（引用符閉じ）、母音・Nの声門破裂無しは“ʔ”（引用符開き）であらわす。

・それぞれ有標のものとかんがえられるものに印をつける。（声門破裂なしの・アは内間直仁・野原三義 2006、声門破裂ありの・メは（国立国語研究所 1963 に ‘meNsheeN’ の土族的発音としての記載があるので（ ）付きで掲載しておいた。

〔付記〕 筆者が沖縄御学習を始めてから、いろいろなサポートを惜しみなく与えてくださっている（今回は「試案」のチェックをしていただきました）国吉朝政氏（沖縄語普及協議会）に感謝いたします。なお、本稿は2013～14年度 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究「危機言語教育に対する日本語教育の方法の適用」補助金番号25580088）による研究成果の一部である。

An essay of developing an elementary Okinawan textbook adapting the methodology of Japanese pedagogy

Satoru HANAZONO

Tokyo University of Foreign studies

【keywords】 Okinawan language, Ryukyuan languages, endangered languages
second language education

The Okinawan, one of the Ryukyuan languages, is mentioned by UNESCO as "an endangered language" in 2009. Okinawa Prefecture also enacts "the day of the Ryukyans" and tries to preserve these languages.

Although the feeling of the Okinawa language revival is increasing, difficulties in learning and education of the Okinawa have not so much improved. It is especially because a good reference grammar doesn't yet exist, and textbooks in this field are not fully developed.

The author came up with an idea to adapt the method of Japanese language education for education and learning of Okinawa because they have the same protolanguage and therefore have many similar things in grammar and vocabulary. Until now, sentence patterns and their grammatical notes for basic course of Okinawan have already been written, and now making dialogues and exercises of grammar is in progress.

And it also came to be clear to give some suggestion for the description of grammar and vocabulary of Okinawa by making textbooks for the pedagogy of this language.

東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第4号執筆者一覧

孫斐	北京大学大学院博士後期課程
ツォイ・エカテリーナ	東京外国語大学大学院博士後期課程
Hanan Rafik Mohamed	カイロ大学
葛茜	福州大学
篠原将成	国際基督教大学大学院博士後期課程
鈴木智美	東京外国語大学
花園悟	東京外国語大学
臼井直也	東京外国語大学大学院博士後期課程
谷口龍子	東京外国語大学
望月圭子	東京外国語大学
尹鎬淑	サイバー韓国外国語大学校
田中和美	国際基督教大学
ASADCHIH Oksana	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学
辻澤隆彦	東京農工大学

『日本語・日本学研究』国際編集顧問一覧（順不同）

趙華敏	北京大学
徐一平	北京外国語大学
蕭幸君	東海大学（台湾）
尹鎬淑	サイバー韓国外国語大学校
任榮哲	中央大学校（韓国）
于乃明	国立政治大学
金鐘德	韓国外国語大学校
陳明姿	国立台湾大学

編集後記 東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第4号をお届けします。／今号への公募論文の応募総数は14本（言語6、日本語教育3、文学3、歴史研究1、文化1）。うち8本が採用となりました。／また今号では、2013年7月31日から8月2日にかけて開催された夏季セミナー2013「言語・文学・歴史——国際日本学の試み」でおこなわれた院生発表会の要旨を掲載いたしました。国内外の院生の活気ある報告に私たちも大きな刺激を受けました。セミナー開催にあたってご協力いただいたみなさまに心から感謝申し上げます。（友常勉）

東京外国語大学国際日本研究センター

日本語・日本学研究 vol.4

Journal for Japanese Studies

発行：2014年3月31日

編集者・発行者 東京外国語大学国際日本研究センター

代表者 野本京子
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 アゴラ・グローバル 2F
Tel/Fax: 042-330-5794

印刷・製本 (有)山猫印刷所
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 5-39-1
Tel: 03-5810-6945